



図 1. ヘッダの例

原稿を作成する場合、著者は必ず仕上がりを確認する。3 ページ以上の原稿については、3 ページ目以降の奇数ページのヘッダ(ハシラ)がページ幅を越えないようにする(図 1)。越えそうな場合には著者において`\journalhead{}`中に書くタイトルを同じ意味の短い表現に改めること。ヘッダ(ハシラ)は途中で改行してはならない。また、`\journalhead{}`の中を空にしてはならない。なお、ページ番号はページ下部中央に書き込まれる。

投稿時には、著者名は記入してはならない。の自身は変更せずこのままにしておくこと。

アブストラクト(論文概要)は、2007 年からは`\begin{abstract}`と`\end{abstract}`の間に、600 文字程度の和文のいずれかで書くように変更となったので注意されたい。2012 年からは英文は廃止された。

2.3 本文

`\section{}`、`\subsection{}`など、スタイルクラスで用意されている章立てを用いながら、通常の \LaTeX 2_ε 文書執筆の要領で書く。

図表は、査読用投稿の場合には査読者が十分読みとれるよう配慮する。カメラレディ原稿は提出したものがそのまま印刷、出版されるので、十分な画質があるように著者において出力すること。なお、写真などもすべて原稿中に組み込んで出力すること。

2.4 謝辞, 参考文献

謝辞は、ブラインドレビューのため、投稿時には削除すること。

参考文献は \LaTeX を用いて文献データベースから自動生成することを強く推奨する。文献スタイルは`jwiss`を使う。手書きで作成する場合には、文末の例のように著者名、論文名、所収冊子名(英文の場合には斜体)、ページ番号、発行年の順で書く。英文で著者名を書く場合には、名(first name)のイニシャル、姓(last name)の順に書く。共著者が多い場合には「et al.」で省略してもよい。なお、参考文献に URL を指定する場合には、そのページが存在していることを投稿前に必ずもう一度確認すること。ニュース記事のように短い期間で URL が変更されたりページ自体が消滅する恐れのある Web



図 2. 図面の例

ページは参考文献として好ましくない。

2.5 未来ビジョン

未来ビジョンについては、必須とせず任意とする。論文本体とは別に、「この研究はどういう未来を切り拓くのか」について、著者の視点からアピールしたい点があれば、最終頁に欄を設けて設けて自由に議論してください。枠の大きさの改変はしてはならない。枠内であれば、ある程度改変してもよいものとする。

3 論文作成の例

`\section{論文作成の例}`と書くとおのように表示される。

3.1 図表挿入の例

`\subsection{図表挿入の例}`と書くとおのように表示される。

3.1.1 表の例

`\subsubsection{表の例}`と書くとおのように表示される。表 1 は表の例である。

表 1. 食欲を満たす方法と特徴.

	値段	スピード
高級料亭	高い	遅い
ファミリーレストラン	中ぐらい	中ぐらい
ファーストフード	安い	早い

図の例

`\subsubsection*{図の例}`と書くとおのように表示される。アスタリスク(*)をつけたことにより番号が表示されない。図 2 は論文中に図面を挿入した例である。

